柿生文化

平成２４年1月18日
柿生郷土史料館 情報・研究誌
住所：川崎市麻生区上麻生6-40-1柿生中学校内
電話：044-988-0004（柿生中学校）
第４４号

明けましておめでとうございます。
今年もよろしくお願いし致します。

平穏無事な年となりますように

昨年は、東日本大地震と原発事故、世界的な風水害などの自然災害の発生。そして更に西アジアから北アフリカにかけての国々で起きた政変など、人類にとって実に多難な１年間でした。

この半世紀の中でこんなに多くの困難を抱えた年は今までかつて経験がなかったように思えます。だからこそ「平穏無事」という言葉がこんなにも心に響き、日常生活のなかでは実に有り難いことなのかとつくづく感じさせられた一年でもありました。

さて、今年は辰年ですが、正確には**壬辰(みずのえたつ)**の年になります。暦を日本に伝えた中国では「陰陽五行」という考えがあり、全ての物は**木・火・土・金・水**から成り立ち、それぞれ「**陽**」と「**陰**」から成り立っているということが基本にありました。

例えば「**木**」の**陽**は「**きのえ**(き＝木、え＝「兄」という字を充て「陽」の意味を表す)」と呼び「**甲**」の字が充てられます。また「**木**」の**陰**は「**きのと**(き＝木、と＝「弟」という字を充て「陰」の意味を表します。)」と呼び「**乙**」の字が充てられます。

このようにしていきますと**<u>木火土金水がそれぞれ「陽」「陰」に分けられます</u>**ので１０種類の性格の組合せができ、下のような**十干(じっかん)**ができあがりました。

「木」＝陽＝**「甲（きのえ）」**	「木」＝陰＝**「乙（きのと）」**
「火」＝陽＝**「丙（ひのえ）」**	「火」＝陰＝**「丁（ひのと）」**
「土」＝陽＝**「戊（つちのえ）」**	「土」＝陰＝**「己（つちのと）**
「金」＝陽＝**「庚（かのえ）」**	「金」＝陰＝**「辛（かのと）」**
「水」＝陽＝**「壬（みずのえ）」**	「水」＝陰＝**「癸（みずのと）**

ですから今年は**<u>「陽」の性格をもった「水」との関わりが強い</u>「壬（みずのえ）の辰」**の年になるわけです。

一方、子(ね)・丑(うし)・寅(とら)・卯(う)・辰(たつ)・巳(み)・午(うま)・未(ひつじ)・申(さる)・酉(とり)・戌(いぬ)・亥(い)の**十二支**はもともと季節の特性を表す意味をもっていました。例えば「辰(たつ)」は陰暦の３月頃を示し、本来的な意味は２枚貝が殻から足を出しはじめ、「震える」という意味をもっており春先の動植物が少しづつ動き始めるという意味をもっていたようです。

十干・十二支の考えは中国の古代殷王朝(紀元前16世紀～紀元前11世紀頃＝日本の縄文時代の前、「旧石器時代」)の時代に考えられたもので、十二支はやがて戦国時代(紀元前5～4世紀＝日本の縄文時代末期～弥生時代初期)に人々が覚えやすいように１２の動物と結び付けたようです。

今年は、震災の困難から復興に向けた大きな動きが始まる年となることでしょう。

地名の謎を探る

「籠場（ローバ）」「牢場（ローバ）」「籠口（ローグチ）」地名を考える　２

前回は、川崎のローバ地名について考えてみました。ローバの「ロー」とは果たして何なのか。その一つとして黒川、土橋の『牢馬谷（ローバヤト）』や横浜市都筑区大棚町の『牢場（ローバ）』のように「牢」を当てている地名があり「牢獄」があったのではないかという推測をしてみました。

しかし、圧倒的に多いのは「籠（ロー）」の字を当てているという点です。川崎市以外でも横浜市内緑区新治町の『籠場（ローバ）』（新治市民の森）や東京都田園調布『籠谷戸（ローヤト）』（田園調布雙葉学園そばで古くは多摩川の入江でもあった）という地名があります。ということで「牢」にだけ関わる地名だけではないことが考えられます。

また、川崎市内では上菅生の『籠馬沢』、南生田の『籠馬池』野川の『籠馬谷』のように「馬」に関する漢字が当てはめられています。となると「馬を押し込める」という意味が推測されます。確かに川崎市北部とその周辺は奈良時代以前より、良馬の産地で「石川の牧」などがあり、多くの馬が放牧されていたと考えられます。時代は少し異なるものの、中・近世においてもその名残は多少なりとも存在していたと思われ、放牧馬を追い込む収容場であったことも考えられます。

「ローバ」の地形を考えますと下の地形図（現在の地図では地形が変化していることが多いため明治14年の「迅速測図」を使用しました。）でも分かりますが多くが「谷戸」であるということです。それを考えますと馬を追い込むには適していたと考えられます。

しかし一方では、山中にあり、決して「牧」などの放牧に適していない場所もあります。中には『ローバ』の奥の位置に『死馬捨て』などの通称地名があって馬の死体遺棄場所と思われる所もあります。

また、アイヌ語の中に興味のある地名がいくつかあります。岩手県下閉伊花輪の『老木（ローキ＝奥まったところという意味）』や北海道美瑛町『朗根内（ローネナイ＝深い溝などの意味）』『老節布（ローセップ＝急に広くなる川＝谷戸地から逆に外に出たときの様子か）』『ラウネ（両岸が高くなっている場所＝）』等のように、谷戸地形そのものの姿を「ロー」と表現したことも考えられます。

いずれにしても、「ロー」に共通することは、ほぼ谷戸地で奥まった地形であるということです。そして地形や環境などによって「牢獄」（山中でなく近くに古い寺院などがある場合は「牢」のケースガ多いのではないか）であったり「馬の収容場」（周囲の山が険しいと考えられる）であったり、あるいはただ単に「谷戸地」を指したようなものもあり決して一つに断定できないということです。

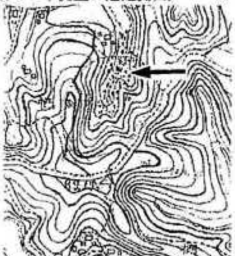
同時に漢字の意味だけで判断することは危険だと思います。地名に充てる漢字は都合のいいように変わっていく場合が多いのです。（参考資料＝「川崎地名辞典」「アイヌ語辞典」「アイヌ語地名解」）

「ローバ」の地形

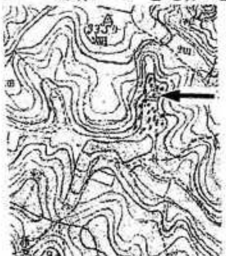
（明治１４年測量の迅速測図）　※ ⁂ 地域が「ろー」地名の地域＝大部分が谷戸地でした。

籠口の池（下麻生）

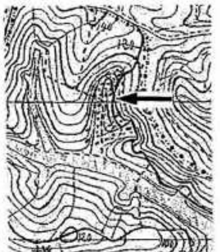
牢場谷（土橋）



籠久保（下菅生）



籠馬沢（上菅生）



牢場・ろー口（黒川）

箕輪敏行氏が語る「柳田国男の世界」

（小学校社会科教科書刊行当時の柳田国男）

１２月１７日(土)に箕輪敏行氏をお迎えして、かつて共に小学校社会科教科書の編纂に携わった柳田国男先生の人物や思想をお話していただきました。

箕輪氏は、現在９４才というご高齢にもかかわらず、柿生郷土史料館のために、お住まいの細山からお越しいただきました。

箕輪氏の柳田先生との出会いは、戦後間もない昭和２０年代半ば頃の西生田小学校でした。〝社会科カリキュラム作成〟〝ともに散歩した細山の姿〟〝プレゼントした椎茸の木と収穫の喜びをしたためた礼状〟〝春秋苑訪問のエピソード〟など多くのお話をいただきました。今回のカルチャーセミナーの目的である柳田国男の世界と人間像、そしてなぜ川崎北部に強い興味をもち魅力を感じたのかということの一端を箕輪氏のお話から窺い知ることができました。

柳田国男の考えの基本は「歴史の文献では解らない人々の真の姿は〝民俗学〟によって知ることができる」という事でした。そして冷徹な洞察と判断力のなかにみられる〝優しさ〟は箕輪氏が感じた温かさだったはずです。その人間性が多くの後継者を産み出すとともに、柳田学の魅力となったのではないでしょうか。

柳田国男と柿生とのふれあいについては、箕輪氏がご指摘された『定本 柳田国男集』（筑摩書房）の第３巻収録の「水曜手帳」に王禅寺・広袴・榎戸などの様子が、別巻４巻に収録の「炭焼日記」には柿生をはじめ何箇所かには川崎北部の姿が掲載されていますので是非一度読まれることをおすすめいたします。

また、３１巻の「村のすがたと社会科教育」には「（児童・生徒に対して）有りふれた事物と法則とを確実に知らしめることは大切であるけれども、これによって少年を退屈せしめることは罪悪である。彼らを快い知識の旅に進ませるには方法がある。今まで考えようとしなかった方角から、先ず印象の絵の最も鮮麗なものを供与する必要はないか。日本は古今東西の比較の、何処よりも楽しい国だということを、先ず体験せしめることが急務ではないか。」と述べ、美しい日本の原風景を知らしめることの大切さを説いています。その原風景こそが柿生にもあったのでしょう。

あるいは、「一つの歴史科教案」には柳田国男が小学校社会科教科書の執筆やカリキュラムの作成に関する考え方やなぜ川崎北部への強い思いを持ったのかを窺うことができます。

（講演される箕輪敏行氏）

いずれにしろ、柳田国男の考えや思想を知るためには本人の作品を是非ご一読いただければそのアウトラインを知ることができるのではないでしょうか。そしてその奥に柳田国男の人間性を知る手掛かりになるものがきっと見つかるはずだと思います。

日本民俗学の原点を知るためにも・・・・・

（柳田国男著作の全集は縮刷版で「柳田国男全集」＝ちくま文庫　があります）

各種博物館特別展案内

横浜歴史博物館

テーマ「火の神、生命の神」
～古代のカマド信仰をさぐる～
期間　1／21～3／20
内容　①カマドの伝来と信仰の始まり　②古代東国カマド神　③文献にみるカマド信仰
問合わせ　045-912-7777

東京国立博物館平成館

テーマ「故宮博物院200選」
期間　1／2～2／19
内容　中国皇帝コレクションを空前規模で公開
入館料　1500円
問合わせ　03-5777-8600

江戸東京博物館

テーマ「平清盛」
期間　1／2～2／5
内容　国宝「平家納経」など、世界遺産・厳島神社の至宝を公開
入館料　1300円（特別展）
問合わせ　03-3626-9974

柿生郷土史料館開館のご案内

開館時間
開館：午前１０時
閉館：午後　３時

１月８日（日）特別展解説14:00	２月４日（土）特別展解説14:00
１月15日（日）特別展解説11:00	２月11日（土）特別展解説11:00
１月22日（日）特別展解説14:00	２月18日（土）特別展解説14:00
１月29日（日）特別展解説14:00	２月25日（土）特別展解説11:00

柿生郷土史料館の１・２月の催物

（特別企画展）　　※　お問い合わせ　９８８－０００４（柿生中学校）

第４回特別企画展

－ご好評につき３月まで延長します－

■テーマ　「郷土の古民具と信仰展」
■期　間　１月（日曜日）・２月（土曜日）・３月（日曜日）

（各種セミナー）

第32回 カルチャーセミナー

□テーマ　「思い出のふるさと　こどもの遊び」
――史料館支援委員と地域の方々によるパネルディスカッション――

□期　日　２月２５日（土）午後2時より
□内　容　昔懐かしい子供の頃の遊びについて語り、現代人が忘れてしまった「何か」について考えます。

第33回 カルチャーセミナー

◎テーマ　「杉山神社と鶴見川文化」

◎講　師　松本　良樹　氏　（麻生観光協会ガイド）
◎期　日　３月２５日（日）午後2時～　◎会場　柿生郷土史料館
◎内　容　杉山神社が語る鶴見川流域文化の原点を探る。